



国道1号に事故発生を想定し ドクターヘリと連携訓練

 2月21日(火)



三重県ドクターヘリ事業の運航開始にあたって、庄野町の河川防災センターで、連携訓練が行われました。参加したのは、中央消防署の救急隊員と三重大学病院救急救命センターのスタッフで、市内医療機関の関係者が立ち会いました。

国道1号で多重衝突事故が発生したという状況を想定。要請からわずか10分でドクターヘリが到着すると、救急隊員が患者役の男性をストレッチャーでヘリに運び入れました。

連携の際の注意点などを救急隊員は真剣な表情で聞き、緊急事態への対応に備えました。

伝統工芸技術の練磨と伝承に励む成果を発表 伊勢型紙・伝承の極展

 3月1日(木)~4日(日)

市制施行70周年を記念して、伊勢型紙技術保存会の皆さんが作品展を文化会館で開催しました。会員16人の作品のほか、重要無形文化財保持者(人間国宝)の貴重な型紙が展示され、突彫・錐彫・道具彫・縞彫の4種類の彫刻技法について理解を深めることのできる総合的な内容でした。

彫刻実演や型紙を使っての江戸小紋染めの実演も行われ、精緻な技術が作り出す文様の美しさに、来館者は見とれていました。



伊勢湾に春を告げるイカナゴ漁

昨年より3日早い解禁となりました。

イカナゴ漁は、2隻の漁船で網を引き、体長約3.5cmに成長した魚を獲ります。解禁日は午前6時半から知多半島沖で操業を始め、白子港に午前7時半ごろから続々と運搬船が到着すると、競り人や仲買人らの初競りで港内は活気にあふれました。漁は例年5月ごろまで行われます。



ウメ 3月11日
龍光寺(神戸二丁目)

春を告げる花々が咲きだしました



サクラ 3月15日
北川保さん方(池田町)

強い寒波もひと段落し、市内でも春を告げる花々が見られるようになりました。

今年の桜はスロースタート。その中でも、池田町の北川さん方では、すでに早咲きのサクラが咲き誇りました。本格的な春もすぐそこまで来ています。

防災講演会「想定外を生き抜く力」

 3月19日(月)

鈴鹿医療科学大学 白子キャンパスで、自治会連合会と市が主催する防災講演会を開催しました。講師に、東日本大震災の津波から多くの小中学生が生き延びた「釜石の奇跡」の立役者である群馬大学の片田敏孝教授を迎えました。当日は920人が来場し、皆さんの関心の高さを示し

ていました。

講演会では、東日本大震災の事例を交え、避難の3原則を解説していただきました。

「想定にとらわれるな」 大自然には想定内はあり得ない。想定に頼れば、想定外の事態に対応できない。

「最善を尽くせ」 もう大丈夫だろうではなく、そのときできる最善の対応行動をとる。

「率先避難者たれ」 自分が避難する姿をみて、他の人も避難するようになる。

